第4章 本市の公共交通網の目標

4-1 目標の設定と考え方

4つの方針に対して、以下の通り4つの目標を設定します。

基本方針の設定

基本方針1

効率性と利便性の確保により 持続可能な公共交通の構築を目指し ます

基本方針2

市民にも来訪者にも 分かりやすく使いたいと感じる公共 交通の構築を目指します

基本方針3

コンパクトな都市づくり (旭川市の将来像)につながる 公共交通の構築を目指します

基本方針4

公共交通の維持確保、利用促進に向けて関係者と連携した取組を実施します

目標の設定と考え方

目標1 公共交通の利用増加を目指す

基本方針1の公共交通の利便性の確保, 基本方針2の分かりやすさの確保,基本 方針3のコンパクトな都市づくり(=公 共交通が利用しやすい都市づくり),基本 方針4の利用促進,といった全ての基本 方針の取組に対する目標として,「公共交 通利用者の維持,増加」を目指します。

目標2 利用しやすい公共交通の 実現を目指す

基本方針1の公共交通の利便性の確保、 基本方針2の分かりやすさの確保、基本 方針4の公共交通の維持確保や連携に取 組むことで、「利用しやすい公共交通の実 現」の目標を目指します。

目標3 公共交通網の維持を目指す

基本方針1の公共交通の利便性の確保、 基本方針2の分かりやすさの確保、基本 方針3のコンパクトな都市づくり(=公 共交通が利用しやすい都市づくり)の取 組に対する目標として、「公共交通網の維 持」を目指します。

目標4 関係者が連携した利用促進 などの取組の充実を目指す

基本方針 4 の利用促進に向けた関係者と の連携の取組に対する目標として、「関係 者が連携した利用促進などの取組の充 実」を目指していきます。

4-2 計画目標を評価するための評価指標

計画の達成状況を評価するための各目標に対する指標の考え方や評価方法は以下のとおりとします。

◎目標 1 公共交通利用の増加を目指す

指標1 路線バス,鉄道の市民一人当たりの年間利用回数

目標1について,路線バス,鉄道などの公共交通利用の増加を評価・検証するため,路線バス,鉄道の市民一人当たりの年間利用回数を指標1として設定します。平成28年度の年間利用回数の1割増を目指します。

指標 1	現況値 [H28 年度]	目標値 [H39 年度]
路線バスの市民一人当たりの 年間利用回数	バス 34.1回/年	バス 37.5 回/年以上
鉄道の市民一人当たりの年間利 用回数	鉄道 5.9回/年	鉄道 6.5 回/年以上

[指標の算出方法]

旭川市統計書の旭川市内一般乗合自動車輸送人員(総数)及びJR各駅旅客数(乗客数)を住民 基本台帳の10月1日現在での人口で除し、年間市民一人当たりの利用回数を算出します。

- ・バス: 旭川市内一般乗合自動車輸送人員(総数)÷住基人口(10月1日現在)
- ·鉄道:JR各駅乗客数÷住基人口(10月1日現在)

◎目標2 利用しやすい公共交通の実現を目指す

指標2-1 通勤や通学などの交通の便の満足度

目標2について、利用しやすい公共交通の実現を評価・検証するため、通勤や通学(買い物等に比べて時間的制約のある外出)などの交通の便の満足度を指標2-1として設定します。現況値の1割向上を目指します。

指標 2 - 1	現況値 [H29 年度]	目標値 [H39 年度]
通勤や通学などの交通の便の 満足度	45. 1%	50%以上

[指標の算出方法]

市が隔年で実施する市民アンケート調査の結果を活用して評価します。

通勤や通学などの交通の便の満足について、よい、まあよいと回答した割合の合計値とします。

指標2-2 公共交通体系の充実等の満足度

目標2について、利用しやすい公共交通の実現を評価・検証するため、公共交通体系の充実等の満足度を指標2-2として設定します。現況値から約10%向上させることを目指します。

指標2-2	現況値 [H29 年度]	目標値 [H39 年度]
公共交通体系の充実等の満足度	19. 7%	30%以上

[指標の算出方法]

市が隔年で実施する市民アンケート調査の結果を活用して評価します。

まちの機能強化(公共交通体系の充実等)と国際化の推進の満足度について、満足、まあ満足と

◎目標3 公共交通網の維持を目指す

指標3 公共交通の人口カバー率の維持

目標3について、公共交通網が維持されているか評価・検証するため、公共交通の人口カバー率の維持を指標3として設定します。現況値以上を維持することを目指します。

指標3	現況値 [H29 年度]	目標値 [H39 年度]
公共交通の人口カバー率の維持	82. 6%	82.6%以上

[指標の算出方法]

500m人口メッシュデータ(最新の国勢調査データ)と,評価年の公共交通整備状況に応じた1日5 往復以上ある駅(半径500m以内)とバス停(半径300m以内)のカバー状況を,GIS(地図情報システム)を用いて算出します。

◎目標4 関係者が連携した利用促進などの取組の充実を目指す

指標4 公共交通の維持確保や利用促進に向けた取組の実施回数

目標4について、関係者が連携した利用促進などの取組の充実を評価・検証するため、公共交通の維持確保や利用促進に向けた取組の実施回数を、指標4として設定します。

これまでも、モビリティ・マネジメントやバスの乗り方相談会、JRの利用促進に向けたイベント、運転手確保に向けた合同就職相談会など、関係者が連携して取組を行ってきましたが、これらの取組をさらに充実させていきます。

現状値の年5回から、年10回以上を目標値とします。

指標 4 - 1	現況値 [H29 年度]	目標値 [H39 年度]
利用促進事業の実施数	5 回/年	10 回/年以上

[指標の算出方法] 毎年の実施状況について地域公共交通会議にて関係者による報告を行う

<基本方針と目標、指標の整理>

